

米日教育交流協議会代表 丹羽筆人

## 在米親子にアドバイス

## 日米の教育事情

帰国生編入学受け入れの実態

間もなく現地校が年度末を迎えます。学年の修了や卒業に合わせて本帰国する方が目立つようになりま  
す。このため補習校でも子どもや保護者とお別れの挨拶をすることが多くなりま  
す。

この時期に帰国する場合

## 帰国時の編入学実施校を探し、入試や受け入れ体制について把握することが大切

は、日本の学校には年度の途中に編入することになります。公立の小中学校に編入する場合には入試の心配はありませんが、帰国生に対する特別な配慮は期待できません。ただし、帰国生の受け入れ実績校ならば、ある程度のノウハウがあるので安心です。

一方、国私立の小中学校および国公私立の高校に編入する場合には入試という関門がありますが、それ以上に問題なのは、帰国生受け入れ校のすべてが、いつも編入生を受け入れるとは限らないということですね。編入生は、欠員が生じた場合のみに受け入れるという学校も多いためです。また、定期的に編入生を受け入れる学校でも、中3や

高3の9月編入は除くというケースも目立ちます。このため、編入を希望するのであれば、志望校を多めに選定して、各校に自分の帰国時期に編入生を受け入れてくれるのかどうかを確認することが大切です。

また、編入試験は小学校では国語と算数、中学と高校では英語、数学、国語という学科試験が課されるのが一般的です。試験では編入する学年に在籍する児童・生徒についていけるだけの学力の有無が試されま  
す。そのため直近の定期テストの問題を課すという学校もあります。編入試験に  
対応するためには、編入する学校の出題内容や授業の  
進度といった情報をキャッチするとよいでしょう。

そして、各校の帰国生受け入れ体制や配慮について確認することも重要です。帰国生受け入れ校と言っても、授業や学校生活は国内生と全く同等に扱うという学校が多いのが実情で、受け入れ体制があり配慮を行う学校でもその内容は千差万別です。たとえば、東京学芸大学附属国際中等教育学校、南山国際、同志社国際、関西学院千里国際の各中学・高校や国際基督教大学高校は、入試や授業、学校生活などの面において帰国生受け入れのための配慮がされています。また、成蹊、攻玉社、実践女子学園、東京女子館などのように国際学級を設置する中学・高校でも同様な配慮がされていると言えるでしょう。

う。その他、英語の実力に  
応じて帰国生対象の特別授  
業（取り出し授業）を行っ  
たり、日本語力や学習進度  
に応じて補習を行ったりす  
る学校もあります。学校生  
活においては、カウンセラ  
ーによる相談体制がある  
か、茶華道や武道などの日  
本の文化を体験できる機会  
を積極的に設けている学校  
もあります。各校の受け入  
れ体制を把握するために、  
入学案内書やウェブサイト  
を見たり、実際に学校を訪  
問したりすることをお勧め  
します。

（次回は6月23日号掲載）

米日教育交流協議会のウェブサ  
イトにて、当コラムのバックナン  
バーもお読みいただけます。

UIJEC Website: [www.ujec.org](http://www.ujec.org)